



令和6年5月10日

研修だより 11号

## 知識・技能の習得のために②

小笠原康晃

先日実施された袋井市の研修主任者会。

その中で、グループ協議の時間がありました。

浅羽学園の研修主任がグループになって、各学校の研修の取り組みについて話し合いました。

話し合いをしているうちに、「思考力を高めるために、基礎・基本の知識・技能をしっかりと身に付けさせないといけませんね。」という話になりました。

本校の授業研究でも「思考力の向上」を目指しています。

そのためには、「知識・技能の習得」が必須です。

知識・技能とは基礎的・基本的なものです。

国語であれば、漢字の読み書きや語彙などがあげられます。

算数であれば、四則計算や図形の特徴などがあげられます。

単元や領域によって異なりますが、一問一答形式で解答できるものと捉えても良いかもしれません。

知識・技能を身に付けさせるために、どのような取り組みをされているでしょうか。

前号からの続きです。

磯野先生は、1年生算数の授業で動作化を取り入れていました。

1年生にとって、1から20まで数えることは大変なことです。

数が多くなるほど、具体的に数えることが難しいからです。

数の順番で混乱してしまうこともあります。

そうならないように、動作化を取り入れた授業をしていました。

数を数えるときに、一緒に手を叩きます。

すると、音に合わせて数を覚えることができます。

五感を使った学習は子どもたちの印象にも残りやすいです。

特に、抽象的なものであるほど、動作化を取り入れることで分かりやすくなります。

1年生という学年の特徴を活かした活動だと感じました。